

平成 28 年の仕事始め式に当たり一言ご挨拶を申し上げます。

明けましておめでとうございます。

皆さん方にはそれぞれに新春の幕開けを決意も新たにお迎えになられたこととお喜び申し上げます。

また、辻 賢治議長並びに山内政夫副議長におかれましては、新年早々のお忙しい中にも拘わりませず本日の仕事始め式にご臨席いただき誠に有り難うございます。

どうか本年も引き続きご指導を賜りますようお願い申し上げます。

さて昨年は平戸市が合併して 10 周年の節目の年として市民の皆さまと共に心新たにスタートすることが出来た年でありました。

さらに本年は、様々な分野において取り組んできた事業が具体性を帯び、形となって効果を発揮する段階にステップアップすることが期待される年でもあります。

ご承知のとおり、今年には申年です。この申という文字には「申す」という漢字が使われていますが、その部首の使われ方として「神様」の「神」の字は勿論のこと糸偏に申すと書いて知恵や品格の高い人を指す「紳士」の一字にも使われ、また人偏に申すと書いて「伸びる」といった意味も含まれており、干支の語源となる『漢書律曆志』によれば、この「申」の意味は「草木が伸びきり、果実が成熟し堅くなっていく」ことを表す文字とされています。

まさに昨年「平戸プライド元年」としてスタートした幾つもの事業がそれぞれ官民協働により幅広く充実したものになり、「申年」に相応しい成熟した果実をもたらしてくれるであろう段階にさしかかろうとしています。

そして何よりも今年は、人口減少をいかに抑制するかという「平戸市総合戦略」の策定ならびにスタートの年であり、今年度すでにいくつか始動している事業とともにさらなる進化を遂げるべき節目になります。

これらの事業は平戸市ずっと住みたいまち創出条例の理念に基づき、「雇用の確保」「産業の振興」「子育て支援」「定住移住の推進」という四つの重点項目をさらに強化かつ具体化して積極的に展開される施策体系であり、まさに地方が生き残り、地域間競争に打ち勝つための試金石であるともいえます。

さらに本年は、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」が6月にトルコイスタンブールで開催される世界遺産会議において登録される見込みであることに加え、10月には長崎県では初めての開催となる「センサシンポジウム」が平戸市で開催され、全国からロボット工学や物理学をはじめとする権威ある学者や技術者が一堂に会することについて、県および関連企業群のご協力をいただきながら、関係者の全てが総力を結集して密度の高い有意義な会合を実現するとともに、本市におけるコンベンション開催実績を広く発信してまいりたいと思います。

そしてこれまたスケールの大きい催しの一つである全国高齢者福祉祭、いわゆる「ねんりんピック 2016」が本県で開催される中で本市では参加者数が千人を超え、延べ宿泊者数約3千泊が期待されるゲートボール競技が誘致されることとなっており、参加チームの監督や選手など大会関係者に対して市民総力によるおもてなしや自然景観、加えて今や全国にその名を知られている特産品の魅力を広くお伝えすることで波及効果を導き出したいと思います。

一方で、本年秋にはJRグループ各社が全国を舞台に長崎観光をPRする「長崎 destinations キャンペーン」が展開されることとなっておりますので、こうした国内最大規模の観光キャンペーンに平戸市としてもしっかりと連携し経済効果を最大限に高めてまいります。

このほかにも、昨年引き続き、人気テレビ番組『劇的ビフォーアフター』において放送されたレストハウスのリフォーム工事が着手されることで、この完成には既に全国の視聴者や年齢階層を問わない多くの皆様が私どもの当初の予想をはるかに超える大きな期待を寄せておられますし、加えて本市のふるさと納税についても年末までに昨年を大きく上回る25億2,800万円の寄付額が寄せられたことから本市の取組みが高い評価を受けていることの証左として、本市の特産品の知名度アップとともにその手応えが幅広く伝わっています。

ここで特に重要なことは、これらの追い風や実績による効果を一時的なものとして捉えるのではなく、この流れをさらに広げ、深みを持たせ、確実なものに仕上げるための綿密なアプローチが不可欠であります。

決して現状に慢心することなく、常に改良・改善を加え、迫り来る変化や多様化する価値観に備えながら、絶えず自らを戒める自制心と取りこぼしがたいよう細心の注意深さ、そして未来へつながる終わりなき戦いに挑む粘り強い精神力が不可欠であることはいまでもありません。

申年に寄せられた年賀はがきのデザインに「見ザル、聞かザル、言わザル」の描写をよく目にしましたが、私たちはその真逆の取組みとして、「見ザル」ではなく「常に先進事例や具体的な数値などをよく見て観察するサル」に、「聞かザル」ではなく「気軽に市民の声や外部からの評価によく耳を傾けるサル」に、そして「言わザル」ではなく「自らの説明責任をしっかりと果たして本市の魅力を全国に積極的に発信するしゃべるサル」になって、時には良い意味での「サル知恵」を活かしながら、何事にも果敢に取り組んでまいりましょう。

今年の平戸市はどんな戦略で挑んでくるのだろうか、近隣をはじめ全国の自治体が大いなる関心をもって注目しています。

当然のことながら私どもは市政を預かる責任者として市民の皆様をはじめ全国の多くの平戸ファンのご期待にお応えするためにも、世界中の方々や未来の子どもたちを魅了し選ばれ続ける自治体に進化しつつ、自立した持続可能なまちづくりに全力を傾注してまいる決意を新たにしたいと思います。

結びになりますが、本年が平戸市民の皆様にとって、素晴らしい年になりますことと、併せて職員各位のご奮闘を期待申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

終わります。